

緑化だより

No.191 令和5年3月号



タマゴケ

- 季節の花(ひ(ヒノキ、檜、桧))
- 水生昆虫の話
(チラカゲロウ属)
- 小さな世界こけ(タチゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

ひ(ヒノキ、檜、桧)

「鳴神(なるかみ)の音のみ聞きし 巻向く(まきむく)の
檜原(ひのはら)の山を今日みつるかも」

柿本人麻呂 万葉集 卷7-1092

これを訳しますと

(古くから神様が祀られている神聖な山として、遠雷(えんらい)を聞くように、うわさに聞いた、その巻向(まきむき)の檜原(ひのはら)の山を、今日やつの思いで、はっきりとながめて、目にしました。)

奈良県桜井市檜原神社は日本で最も古い神社で、三つの鳥居を一つに組み合わせた「三つ鳥居神社」です。ここから見える山は、全体が大神神社のご神体で、信者は入山禁止のため、昔から、この神社から奥の森に向かい、聖なる山としてあがめられていました。この山には古代巨石信仰の面影を残しており、祭器が、出土しております。



奈良県 檜原神社の三つ鳥居

ヒノキの由来は、火おこしに使われた「火の木」、また尊く最高の木を表している「日の木」といわれ最も霊力のある木です。

『古事記』や『日本書紀』の神話では、木の神スサノオノミコトが、胸の毛を抜くとヒノキになり、あごの毛はスギになり、眉毛は楠に尻の毛は槇になり、「桧は神殿に、杉と楠は船に、槇は棺桶に使え」と言ったといわれています。

江戸時代は木曾五木 (ヒノキ、アスナロ、コウヤマキ、サワラ、クロベ)として、幕府(尾張藩)に保護されて、許可なく木を切ることは、禁止されてきました。

ヒノキはヒノキ科ヒノキ属の常緑針葉樹です。本州の福島県以南、四国、九州の屋久島まで自生しています。

雌雄同株で花期は3月末～4月です。雄花は長さ2～3mmの楕円形、雌花は3～5mmの球形です。果期は10月頃、約12mmの球果でサッカーボールのような形です。



ヒノキの雄花

ヒノキの材は木目が美しく、香りが良く、樹齢も1000年以上で、耐久性、耐水性に優れ、世界最古の木造建築物である法隆寺は、ヒノキが使われており最良の建築材です。樹皮は赤褐色で帯状に剥がれ、檜皮葺き(ひわだぶき)として、重要建造物の屋根に使われます。

日本の山はほとんどが、緑化や建築用材のために、スギとヒノキが植林されています。(上村)

水生昆虫の話

チラカゲロウ属

3月に入ると、冷たい川の中で春に羽化する水生昆虫たちは終齢幼虫になり、もっともサイズが大きいサイズになるので、観察するにはもってこいの季節です。

今年、雪が積もって薄っすら川淵が凍っていた日に、水生昆虫を観察しに川に入りましたが、その時に見つけたチラカゲロウ属(チラちゃん)をご紹介します。

このカゲロウは、ヒトリガカゲロウ科チラカゲロウ属で北海道から九州まで、朝鮮半島や中国、ロシアでも確認されているそうです。

体長は約 18 mmとカゲロウの幼虫の中では大きめで、山地溪流から平地溪流、ちょっと流れが速い早瀬や平瀬の石底で石のすき間などに生息しています。いわゆる普通種と言われる種なので、上流域から下流域まで広範囲で観察することができます。

写真のとおり見た目はほっそりスマート。若干個体差はありますが、赤茶色っぽいチョコレートのような体色の個体が多く、背面の中央に白っぽいラインが頭から尾まで入っているのが特徴のカゲロウで、尾は3本でフサフサしており、尾先に近い辺りには3本とも同じ位置に黒いソンドがあります。おなかの辺りには小さくて丸っこい葉っぱのようなエラが7対あります。頭はクルリと丸っこくて、真っ黒で大きな目が特徴的で、何とも可愛らしい顔をしています。前肢には、フサフサしたブラシと、口元に刷毛のような毛の塊が1対あるのですが、この刷毛やブラシで石についた藻類や落ち葉、流れてきた生物の死骸の破片などの有機物をキャッチして食べています。近縁種にシマチラカゲロウがいますが、前肢基節のエラが棒状であることから見分けることができるそうです。



チラカゲロウの幼虫

このチラちゃん、とても元気なカゲロウで、網に入ると頭をピクピク動かしてチョロチョロとまるで小魚のように動きまわるので、一瞬魚が採れたのかと勘違いしてしまうことも多々あります。

5月下旬ごろから秋にかけて羽化するので、その時期に川へ行くと、石の上にチラカゲロウの抜け殻がくっついているのをよく見かけます。

とても特徴的な見た目と可愛らしい名前をしているので、水生昆虫観察の初心者でも、早い段階で覚えることができるのではないかと思います。

緑化センターの小川でも、抜け殻を見つけることができるかもしれません。ぜひ探してみたいかがでしょうか？(西村)

小さな世界 こけ

タチゴケ

タチゴケは山の中の道や、庭など、やや湿った土に見られるコケです。

コスギゴケと似ていますが、タチゴケは葉が薄く、葉の真ん中に濃い緑色の線(中肋)が見られます。また、葉は波打ったしわがあり、縁にはギザギザの鋸歯があります。孢子体は 3cm の柄の先に、つやのある褐色で円筒形の孢子のうをつけます。



ナミガタタチゴケ

その中でも、気をつけて観察すると、やや大きめの葉をしたものと、小さい葉のものがあります。大きい葉をしたものはナミガタタチゴケ、小さい葉のものはヒメタチゴケです。

ナミガタタチゴケは、雌雄同株、高さ 2~5 cm、葉の長さ 5~9mm。

ヒメタチゴケは雌雄異株、高さ 0.5~2 cm、葉の長さ 2~5 mm、と小さく、雄株は雄器托をつけます。(山根)



ヒメタチゴケの雄器托



(左)ヒメタチゴケ (右)ナミガタタチゴケ

研修会のご案内

- | | |
|--|--|
| ○ 3月1日(水)『針葉樹の見分け方』 室内で実物の葉っぱを見て、特徴や見分け方を学ぶ ※自由参加・無料、ルーペ持参 | 10:00~12:00 学習室集合 講師：森林植物研究家 埤田 宏 |
| ○ 3月4日(土)『早春のバードウォッチング』 散策しながら野鳥を観察します ※自由参加・無料 双眼鏡持参 雨天中止 | 10:00~12:00 学習展示館前 集合 講師：日本鳥類保護連盟会員 吉見 良一 |
| ○ 3月8日(水)『コケの観察会』 室内で基本を学んだあと、屋外で観察します。 ※自由参加・無料 ルーペ持参 | 10:00~12:00 学習室 集合 講師：広島大学名誉教授 関 太郎 |
| ○ 3月17日(金)『3月の自然探勝』 散策しながら植物を観察します ※自由参加・無料 | 10:00~12:00 学習展示館前 集合 講師：NHK 広島文化センター アシスタント 上村 恭子 |
| ○ 3月28日(火)『早春の自然探勝』 歩きながら植物を観察します ※自由参加・無料 | 10:00~12:00 学習展示館前集合 講師：緑花文化士 横山 直江 |

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。
また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。
ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆ お知らせ・ご案内 ☆♪

- ・ひろしま遊学の森 スタンプラリー 2023 春 3月11日(土)~5月21日(日)
緑化センターと森林公園の両園でスタンプを集めて景品ゲット！
- ・さくら祭り 3月18日(土)~4月16日(日)
さくらクイズに答えて景品ゲット
期間中、早咲きから遅咲きのサクラ約60種類が楽しめます。
- ・さくら祭りお楽しみイベント 4月2日(日)10:00~15:00
場所:レストハウス前広場
- ・第3回ピクニックウォーク 3月26日(日)10:00~15:00
県緑化センター~市森林公園を“学び”・“遊び”ながらウォーキング
※要申し込み(問合せ・申込先:森林公園 TEL 899-8241)

◎ 展示会

- 場所: 学習展示館
(ボード展示)
- ・緑化センターの桜写真展 3月18日(土)~4月16日(日)

